

「すごいね」「ありがたい」 余剰の食材、無償提供

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い学校が一斉臨時休校となる中、給食用食材の廃棄を防ごうと、室蘭市学校給食センター（祝津町）は、不要となった食材を生活が苦しい家庭や子ども食堂、福祉施設などに届けている市内のフードバンクに無償で提供した。突然の事態で生じた食品ロスの危機を少しでも減らそうと決断した。

（野村英史）

母恋南町の障害児入所施設・室蘭言泉学園。段ボール箱にぎっしり詰まったニンジンと、長ネギの山がどっさり運び込まれた。いずれも小、中学校に提供を予定していた給食の食材の一部だ。6日午後、施設の担当者は「わあ立派」「すごいね」

と声を上げ、喜んだ。ニンジンには毎食使う必須の食材という。伊藤裕司総合施設長は「本当にありがたい。教育的な観点でも意義がある取り組み」と感謝した。提供を受けた食材は、法人内にある各施設で役立てられるという。

フードバンクは、企業などから不要となった未使用の食品を集め、必要とする家庭や施設に無料で提供する仕組み。同給食センターは市内の小、中学校の児童生徒と教職員向けに1日約5600食を作る。今回、発注のキャンセルが間に合わなかった食材の活用策を検討する中で、「できる限り無駄にしない」とフードバンク事業の窓口機関の一つ市社会福祉協議会（東町）に相談。連携するNPO法人ワーカーズコープ室蘭事業所のフードバンクいふり（幸町）が食材を受け取り、

必要な場所に届けることになった。提供した食材は、全体で長ネギ75kg、ニンジン22kg。納入業者の了承を得た煮物やゼリーなどの冷凍食品も後日、提供する。給食センターの山口尚子所長は「本来は子どもたちの口に入るものを無駄にはしたくなかった。有効活用をしていただければうれしいですね」と話した。

「一斉休校」廃棄防止へ



給食センターから提供された食材に室蘭言泉学園では笑顔が広がった。6日午後